

## 大工町通り



大工町の名は、城下町として町割りの際に大工職人、畳職人、建具職人等を住まわせたことに由来する。

遠野市では、昭和六十年代に建設省のHOPE計画（地域住宅計画）の策定に合わせ、都市計画街路事業に着手していた大工町通りを、その名にふさわしい町づくりのモデルケースにすることとした。整備を行うにあたっては、地域住民と懇談会を重ね、地場産材（木、瓦など）を生かし、家並みの調和の意志疎通を図るとともに、街路整備においては歩道に家並みに合わせ、厚さ九センチ、幅一五センチ、長さ二メートルのカラマツを敷いた。また、街灯、電話ボックス、掲示板、ベンチなども木製とし、まちづくりの素材として木を活用している。

## DATA・BOARD 32



- ① 岩手県遠野市大工町
- ② 延長380m, 幅員12m
- ③ 植栽, 街灯, 掲示板, 電話ボックス, ベンチ
- ④ 遠野紅唐 (カラマツ)